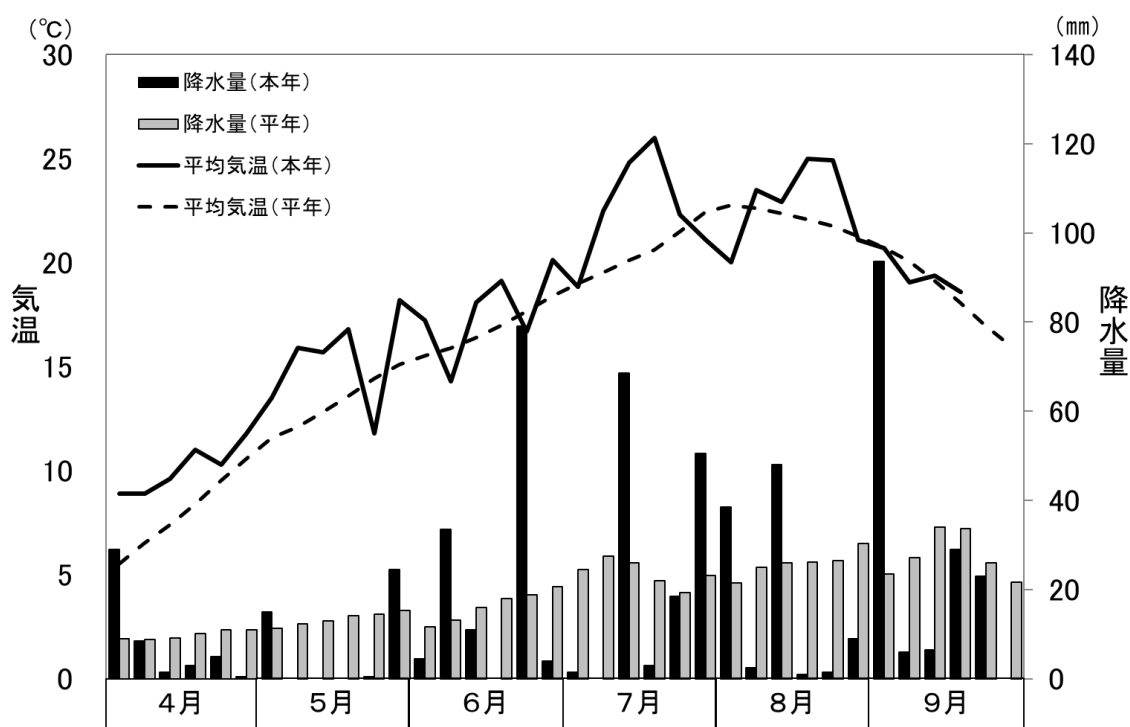


上北農業生産情報 第6号

令和8年9月29日
青森県上北農林水産事務所

○水稻は刈遅れにならないよう、計画的に作業を進めましょう！
○台風や大雨に備え、明きょ等の排水対策を徹底しましょう！
○農作業の安全に努めましょう！
【クマの出没に注意してください！】
○9月に入り、管内ではツキノワグマの目撃情報が相次いでいます。
○遭遇した場合は落ち着いてください。背中を向け走ることは大変危険です。
○屋外での作業は複数人でするほか、ラジオやクマ鈴などを携帯してください。
○作業に夢中になりすぎず、周辺を確認し遭遇しない対策を心がけてください。

気 象



半月別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

【8月】

- ・平均気温は上旬は平年を下回り、中・下旬は平年を上回った。
- ・日照時間は上・中旬は平年を上回り、下旬は平年を下回った。
- ・降水量は期間を通じて平年を下回った。

【8月の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	21.7	22.7	25.7	27.3	17.9	19.0	69.5	51.1	41.0	46.5
中 旬	23.9	22.2	28.5	26.7	20.7	18.6	56.1	46.3	49.0	52.1
下 旬	22.8	21.5	27.0	26.1	19.5	17.5	41.8	51.7	10.5	56.8

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【9月上中旬】

- ・平均気温は、上旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、平年を下回った。
- ・降水量は、上旬は平年を上回り、中旬は下回った。

【9月上中旬の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	19.9	20.4	24.4	25.2	15.9	16.3	37.8	44.1	99.5	50.5
中 旬	19.0	18.6	23.5	23.7	15.5	14.0	32.0	46.4	35.5	67.5

注) 気温は 10 日間の平均、日照時間と降水量は 10 日間の合計

東北地方 1か月予報(9月26日から10月25日までの天候見通し)

令和8年9月24日 仙台管区气象台 発表

- 気温は、高い確率が 60%です。
- 降水量及び日照時間は、多い確率が 40%です。

水 稲

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「まっしぐら」(管内4地点の平均)の9月1日現在の生育は、稈長は平年より長く、穂長は平年をやや短く、穂数は平年並となっている。
- 2 籾数(暫定値)は、1穂籾数、㎡当たり籾数とも平年を上回っている。
- 3 9月1日現在の登熟歩合は、平年を大幅に上回っている。

【生育観測ほの生育状況(品種:まっしぐら)】

年次	出穂期 (月/日)	9月1日現在				1穂 籾数 (粒)	㎡籾数 (×100粒)
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	㎡穂数 (本/㎡)	登熟歩合 (%)		
本年	8/ 3	81.9	18.5	363	72.8	91.8	335
平年	8/ 1	79.2	18.9	361	62.7	87.9	315

注1) 県生育観測ほ4地点の平均値

平年値は各地点の平年値(前3か年～前21か年の平均値)の平均値

注2) 登熟歩合は比重1.06の塩水に沈んだ籾の割合、籾数は暫定値

《刈取作業》

- 1 管内の水田は9月16日頃からおおむね刈取適期に達している。
- 2 胴割粒や茶米等の品質低下を防ぐため、刈取適期内に刈り終えるようにする。
- 3 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。

品種	出穂の早晩 適期の目安	出 穂 期				
		7月30日	8月1日	8月3日	8月5日	8月7日
まっしぐら	適期始(960℃到達日)	9月12日	9月14日	9月16日	9月19日	9月21日
	適期終(1,200℃到達日)	9月25日	9月27日	9月30日	10月3日	10月6日

【十和田アメダス:9月24日まで本年値、以後平年値使用】

《今後の主な作業》

- 1 粃の乾燥は水分 15.0%を目標とし、適正に調整する。
登熟ムラによる高水分粃や未熟な粃の混入が多い場合は、粃水分 18%程度で一旦乾燥を中断し、最低 5～6 時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- 2 稲わらは、家畜の飼料や堆肥等に有効活用する。なお、秋にすき込む場合は、地温が低くなると腐熟が遅れるのでできるだけ早めに行う。

大 豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの 9 月 10 日現在の生育は、草丈は平年よりかなり長く、着莢数は平年より少なかった。
- 2 生育旺盛な一部のほ場で、倒伏が見られる。
- 3 一部のほ場で黒根腐病による立枯れ症状が見られる。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9 月 10 日現在	
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)
十和田市切田	本年	107.9	26.1
	平年	99.4	30.7
	前年	117.7	28.7

注) 平年値は平成 22 年～令和 7 年の平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 ほ場内の青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 コンバインによる収穫適期は、子実水分が 20%以下、茎水分が 50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 培土高のムラが大きいほ場や、倒伏したほ場では、土かみによる汚損粒の発生を防ぐため、刈取りの高さに注意する。

小 麦

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は、越冬前の生育量を確保するため 9 月末をめどに終える。
- 5 条播のは種量は、9 月末までは 10 a 当たり 6～8 kg とするが、10 月になる場合は 2 kg 程度増量する。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの 9 月 10 日現在の生育は、いも長は平年並、いも径は平年を上回ってい

るが、いも重は平年を下回っている。

- 2 一般ほ場は、6月の低温や日照不足の影響により、新しいもの肥大はやや遅れている。
- 3 病害虫は、一部で炭そ病、葉渋病、ナガイモコガ、コガネムシ類の発生が見られる。

【生育観測ほの生育状況(種いも：庄司系1年子芽付き100g)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (mm)	いも重 (g)
東北町滝沢平	本年	5/12	6/ 3	7/19	69.0	56.1	642
	平年	5/ 9	6/ 3	7/ 6	67.8	52.6	858
	前年	5/14	6/ 8	7/ 1	75.5	52.2	1,128

注) 平年値は平成28年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きょ等の排水対策を行う。
- 2 葉渋病、炭そ病を主体とした防除を行う。
- 3 秋期もウィルスに感染するので、採種ほ場はアブラムシ類の防除を徹底し、症状株は早めに抜き取る。

にんにく

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場の準備と施肥
 - (1) 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない、水はけの良いほ場を選ぶ。なお、水はけの悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きょや深耕など事前の排水対策を徹底する。
 - (2) 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
 - (3) 基肥は、窒素成分で10a当たり25kgを目安とする。
- 2 種子の準備
 - (1) イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経していない種子は絶対に使用しない。
 - (2) 種子用の球は病害虫の被害や腐敗がなく、形状の整った一球5～6片のものから選ぶ。
 - (3) 種子りん片はできるだけ大きさを揃えて選別する。りん片重10～15gを基準とし、大きさ別に大中小3段階程度に分別するとよい。
 - (4) ネギアザミウマ及びチューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。
- 3 植え付け
 - (1) 越冬前の葉数が3～4枚となるような植付時期を選択し、作業工程を調整する。昨今の高温気象を鑑み、植付時期は「10月上旬～中旬」を目安とする。
 - (2) 植付け深さは7～8cm程度とする。
 - (3) 植付機の場合、浅植えにならないよう、また種子りん片が真上を向くよう、植付け速度などに注意を払う。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの収穫期は、平年より1日早い8月20日となり、収量は平年並であった。品質はA品が平年より高い73.1%だった。
- 2 一般ほ場の肥大は、茎径がやや細いもののおおむね順調に進んでおり、適宜収穫作業が行われている。
- 3 病害は斑点性病害、さび病、軟腐病の発生が見られており、虫害ではアザミウマ類、ハモグリバエ類の食害が見られている。

【生育観測ほの生育状況(品種：夏扇パワー)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	収穫時		
				収穫期 (月/日)	収量 (kg/10a)	品質 A品率(%)
十和田市洞内	本年	1/20	4/9	8/20	4,033	73.1
	平年	1/27	4/13	8/21	4,047	59.6
	前年	1/20	4/10	8/19	3,876	68.5

注1) 平年値は令和2年～令和5年の参考値(この期間2粒まき)

注2) 令和6年～令和8年は3粒まき

《今後1か月間の主な作業》

- 1 斑点性病害、べと病、さび病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 2 軟白長30cm以上を確保し、適期収穫に努める。

秋だいこん(10月収穫)

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、発芽後の気温が高く推移し、適度な降水により、地上部、地下部ともに生育は平年を大きく上回っている。
- 2 7月下旬～8月上旬には種されたものは、生育はおおむね良好である。

【生育観測ほの生育状況(品種：S-139)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町滝沢平	本年	8/3	38.0	16.6	196.9
	平年	8/6	30.4	14.7	70.5
	前年	8/11	35.0	19.9	117.6

注1) 平年値は平成28年～令和7年の平均値

注2) 今年度から担当農家を変更したため、平年は参考値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 白さび病(わっか症)、キスジノミハムシ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格(1～1.2kg)を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈、葉数が平年をかなり上回っている。
病害虫は、アブラムシ類、ヒョウタンゾウムシ類のほか、コガネムシ等による葉の食害が散見された。また、うどんこ病、黒条病が散見された（生育、収量には影響がない程度）。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調である。8月24日頃から収穫が始まった。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 7	110.4	4.2
	平年	5/ 5	100.0	3.5
	前年	5/14	119.5	4.0

注) 平年値は平成28年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒条病、ヒョウタンゾウムシ等の根部害虫の防除を行う。
- 2 試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月21日現在における果実肥大（横径）は8.1cmで、平年比100%、前年比104%となっている。
なお、黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は8.8cmで、平年比108%、前年比111%となっている。

【生育観測ほの生育状況(品種：ふじ)】

調査地	9月21日現在の果実肥大(横径)				
	本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.1	8.1	100	7.8	104

注) 平年値は平成28年～令和7年の10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 中・晩生種の着色手入れ
早期の強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。ある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。
- 2 中生種の収穫
(1) 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせたうえで適期に収穫する。
(2) 黒石市（りんご研究所）における「トキ」の収穫始めは9月30日頃の見込み。
「トキ」は熟期が揃いにくいので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。「早生ふじ」は、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。
- 3 風害防止対策
台風に備え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。

4 山選果の徹底

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、がくあ部付近の食入痕や滴の痕を見逃さないように注意し、徹底して選別する。

牧 草

《生育状況》

- 1 生育観測ほは、平年より 11 日遅い 9 月 24 日に 3 番草を収穫する見込みとなっている。

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 3 番草の刈取
オーチャードグラス 3 番草の刈取りは、10 月上旬には終わらせる。
- 2 雑草防除
ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布
3 番草の刈取り後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。

飼料用とうもろこし

《作柄状況》

生育観測ほの刈取は平年より 12 日早い 9 月 7 日で、生収量は平年比 157% の 8,140kg/10a、乾物収量は平年比 121% の 2,028kg/10a、TDN 収量は平年比 120% の 1,427kg/10a であった。

【生育観測ほの作柄状況（品種：スノーデント 110 日）】

調査地	年次	刈取月日 (月/日)	熟 期	生収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	TDN 収量 (kg/10a)
東北町北栄	本年	9/ 7	糊熟中期	8,140	2,028	1,427
	平年	9/19	—	5,191	1,679	1,188
	前年	9/10	黄熟中期	6,610	2,409	1,733

注) 平年値は、平成 30 年～令和 7 年の 8 か年平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。